

こくりゆう だより



大阪府立池田高等学校 2年 大西 達也

「昨年5月に能勢に行った時の写真を見つけ、構図が気に入ったので描きました。」



今後のイベント情報

※場所の記載がないものはとよなが国際交流センターで開催します。



ピノイフェスタ

在住フィリピン人の美しい

5月19日(日) 13:00~16:00

フィリピンの花祭り。

対象:フィリピン人とその家族

定員:100名(事前申込不要、当日先着順)

参加費:無料

持ち物:ポットラック形式のため、3人分

以上の食べ物をご持参ください。

場所:すてっぷホールほか



若者のための哲学カフェ

inとよなが国際交流センター

5月19日(日) 16:00~18:00

若者同士でテーマ「936円で何する?」について
対話を楽しむ。

対象:おおむね39歳までの人

定員:15名(先着順)

参加費:無料

申込:来館・電話受付。



3月3日(日)開催 外国にルーツを持つ若者による「Sho! Ming! Ha!」 庶民派室内フェス



オーディエンスも参加!

留学生が落語を一席披露!

若者によるラップ

思いを込めてリリックを刻!

FYAHCのダンス

岡町アートランド(豊中市中桜塚)で第2回の『庶民派屋内フェスSho! Ming! Ha!』を開催し、約80名が来場しました!

2016年にセンターに集まる若者が中心になって企画した第1回から3年、今回は若者はもちろん地域の方々のお借りしての開催になりました。当日はあいにくの雨模様でしたが、多くのの方々にお越しいただきました。

フィリピン・ヤング・アット・ハーツ・クラブ(FYAHC)の方が作ったビーフンや若者のおでんを食べながら、吉本興業の芸人カラミさんの漫談やシアターワーク豊中そらまめさんのパフォーマンスなど盛りだくさんの内容でした。



ラップで思いのたけを主張しました!

最後は若者がこの日のために練習してきたラップを披露。この日のために一から作り上げたラップのタイトルは“My Life”。自分たちの人生について、若者自身が考えたリリック(歌詞)に会場は最後まで盛り上がっていました。

(協会職員・黒島 トーマス 友基)

My Life (一部抜粋)

2016-11 日本に来て 当時の俺中学生
そう これは俺の人生 おいおまえらわかってくれ
とよか国流行って 時間楽し過ぎて
勉強学んでいる ライフの意味探している
けどなかなか見つからない それでもいい
日々生きてくだけ 一日一日当たって碎ける
それでも明日は来るんだぜ
人生ってなんだろう 生きていたら何かあるやろう
毎日新しいこと見つけていって
この人生続けようと思って
マジで生きていきたい この人生
それぞれオリジナルなマイライフ
昨日の自分に伝えたい
移ろう日々 変化の意味
今日はとても 素晴らしい

3月9日(土)開催

「リコン・アラート(協議離婚問題研究会)」一日離婚電話相談ホットライン



電話相談会の様子

当協会が代表事務所を務める「リコン・アラート」の企画で、大阪弁護士会と共催での「一日離婚電話相談ホットライン」を開催しました。「リコン・アラート」は、外国人が日本人配偶者から勝手に離婚届けを出されるといふ被害が相次いでいるため、関西の外国人支援団体、弁護士、法学者が中心となってこれまで啓発・発信を行っており、今回は2回目の電話相談会でした。

離婚のみならず留資格や子どもの面会交流についてなど全国から計25件の相談が寄せられ、離婚問題のニーズの高さを再認識しました。

(協会事務局次長・山本愛)

3月23日(土)開催

国流シネマカフェ 「あん」

2016年度スタートの国流シネマカフェは、主に多文化共生をテーマにした映画を上映しています。また、日中にセンターに来ることが難しい方々にも足を運んでいただきやすいよう、2018年度は上映開始時刻を夕方以降の時間に設定していました。

昨年度は4作品を上映、3月のシネマカフェでは樹木希林さん主演「あん」を鑑賞しました。事前申込が殺到しキャンセル待ちができない程の大盛況で、当日は30名が集まりました。

「差別について改めて考えさせられた」「理不尽なことに耐えてきた人々の行きついた先の美しい世界、心を込めて作った料理の美味しいこと、美しい景色でした。」「ハンセン病について知ることができた」などなど……、上映後にはそれぞれの想いが感想として寄せられました。

今年度もみなさんの心にしみる作品を上映予定ですので、ご期待ください。(協会職員・大庭みゆき)

国流シネマカフェ

3/23 土曜 **あん**
原 保太郎、船越中恵子 118分(114分)

2018年 日本アカリオン賞 主演女優賞(船越中恵子)
2018年 シネマ旬報賞(主演女優賞) 文学座賞

「あん」は、ハンセン病の患者を収容する施設「五島病院」で働く看護婦長・船越中恵子と、ハンセン病を患った患者・原保太郎の物語。船越中恵子は、ハンセン病患者を救済するために奮闘する。原保太郎は、ハンセン病患者の生活を支えるために奮闘する。この映画は、ハンセン病患者の生活と、看護婦長の奮闘を描いた感動的な作品である。

上映時間: 5月23日(土) 17:30~20:00
上映料: 500円(学生・高齢者半額)
上映場所: 豊中市立中央公民館 1階ホール
上映日時: 3月23日(土) 17:30~20:00
上映料金: 500円(学生・高齢者半額)
上映場所: 豊中市立中央公民館 1階ホール

今回は子ども学習広場『学業多(がらくた)』のコーディネーターで、外国にルーツをもつ若者支援事業にも関わる松野さんにお話を伺いました。インタビュー形式で紹介します。(聞き手:協会職員 三木幸美)

——最初に国流に来たのはいつ頃ですか？

学生の頃から、店内で開催されている学習支援の活動に講師として参加していました。しばらく参加していない時期があったのですが、その活動を協会が引き継いだあとに、今度はコーディネーターとして関わることになりました。そのときは参加していたのは店内だけで、センターに行き始めたのは外国にルーツをもつ若者の活動に誘われてからなので、去年の夏頃からです。

「外国にルーツを持つ若者」には自分も入るのですが、実は自分のなかで特にルーツにこだわった経験ってあまりなかったような気がします。日本と韓国どちらのルーツも大切という感覚はありますが、これまでは自分や親の育った背景をよくわかっていないまま大人になった部分もあります。

——その感覚わかります…。私も母が外国人なのですが、自

分の親の生活史を聞くまでは同じことを思っていました。

でも、最近では初めて知り合う人に「俺半分韓国人で〜」っていうのが早くなりました。それまでは「めんどくさいからいいや」という感覚だったのが、あとからたくさんのお話を説明しなきゃいけないくらいなら、もう最初に言っちゃえと思うようになって。国流で色んな人に出会ったからそう思うのかな、と思っています。

今は居場所づくりと学習支援を両立させる活動をしています。やっぱり同時にやることの限界もあるなという風に感じる瞬間もあります。普段は学習塾の講師でもあるので、自分としては『勉強がわかるようになる』ことからその次のゴールを考えてみたいと思います。



子ども学習広場 学業多
コーディネーター
松野 雄太さん

イモチヨモ コラム | オモシロ通信

第3回 3・1独立運動100周年

ファンボクンチャ
皇南康子

2018年2月号に最終回を迎えた連載「なんじや・カンジャ・言わせてもらえば」の執筆者、皇南康子さんのコラムです。皇南さんの思いとメッセージがイモチヨモ(あれこれ)詰まったコラムをどうぞ。

3月のソウルは明るい陽射しに包まれ、春の兆しを感じることができると思いきや、PM25の影響でスモッグに覆われ、外を歩くときにはマスクが必需品だった。2010年に韓日併合・「在日」100年として『「在日」の家族写真』展を開催したが、2019年3月1日は独立運動100周年として、韓国では独立運動に命を捧げた烈士たちをたたえ、記憶する展示や映画の制作、本の出版、行事などが開催されている。

ソウル歴史博物館をはじめ、独立運動に関する展示がたくさんあった。とりわけ面白かったのは、光化門近くの一角に当時の市電や独立運動家の家が再現されていて、広場には独立宣言文や写真の展示、使用が禁止されていた「愛国旗(太極旗)」が市民の手形で作られ、掲げられていたことだ。歩きながら独立運動の歴史や雰囲気が味わえる仕組みになっている。同じ場所にソウル市とソウル大学研究チームによる「記録記憶」と題された、「慰安婦」問題の展示室がある。捕虜収容所で撮影されたとする朝鮮人慰安婦の写真の实物公開や貴重な映像もあり、見応えがあった。

街路にも柳寛順や金九などの烈士たちの写真と説明が展示されている。独立運動展をみている家族連れや、ワークシートに書き込みながら見学している子どもたちの姿にたくさん出会った。ちなみに公営の博物館や美術館は無料である。

柳寛順の映画も二本制作されていて、その一つ、「ハンゴ」を滞在中に観ることができた。ほとんどの場が獄中での女性たちの連帯と闘いである。ポーランドの映画、「アウシュビッツの女囚」を思い出した。柳寛順という16歳で独立運動を主導し、獄中死する運動家と簡単に語っていたが、命を懸けた独立、自由への凄まじい信念に体が熱くなった。自分は罪を犯していないと、どんな拷問にも屈せず、恩赦も受け入れない。

特別なことではなく、朝鮮人として当たり前の生き方をしたいという姿は、民族名を呼び、名乗る活動の原点を見るような人だった。日本の公立博物館で、植民地支配や戦争加害の歴史を知ることにはできない。残念だ。

【お知らせ】 2019年度 ギャラリー展示企画 にご期待ください！

とよなか国際交流センターの館内には、自由に見ることができる展示ギャラリーが2か所設置されています。

イベントの開催時期や季節に合わせて、写真だけでなく実物も多く取り入れながら、10m以上わたって展示をされており、ふらっと来られた来館者からは、「すごく素敵ですね」「初めて見ました」と感想をもらうこともあります。

これまでは常設展示がほとんどでしたが、よりたくさんの方に当センターの取り組みを伝えることを目標に、今後も彩りあふれるギャラリー展示をしていく予定です。ぜひお立ち寄りください！ (協会職員・三木幸美)



4月は民族衣装の展示をしました！
5月は『おやこでいほんご』の展示を予定しています

登録グループの活動紹介



No.17 中国語会話講座 大家好

――陳さんは講師歴20年以上のベテランとのことですが、語学を教え始めるきっかけは何かあったのでしょうか？

陳：最初は、旧センターで主催していた語学講座の講師をしないか、と知人に声をかけてもらったことですね。当時はまだ留学生だったんですが、2年後自主グループとして独立することになり、講師をしながら代表として活動の宣伝や広報活動もしていました。池上さんが代表になってからは5年くらい？ですね。

池上：そうですね。私は長年勤めた会社を退社して、しばらくインバウンド関係を学んだりしていたので、そこで少しだけ中国語にも触れてはいたんです。で、辞めたらすぐに忘れてしまう…と思って、エトシ豊中に寄ったついでに「あ、国際交流ってあったなあ」と思って国際交流センターに初めて立ち寄ったのがきっかけです。

――確かにここはアクセスも良いですし、立ち寄りやすいかもしれませんね。他の皆さんはお近くから来られてるんですか？

鶴飼：私は近くはないですね。これまで語学を学んだ経験もなかったのですが、友人が豊中市の広報を見て誘ってくれたのがもう10年くらい前です。今は友人が遠くに引っ越してしまって、10年経って私だけがここに通い続けています。

佐藤：私はもともと、京都の日本中国友好協会のツアーで数回中国を訪れたことがあって、その時は言葉がまったくできませんでした。だから広報で大家好の活動を見つけたときは「ラッキー」と思いましたね(笑)やっぱり近くで学べると続きますし、遠くだとここまで続けられていないかもしれません。

とよなか国際交流センターには、市民による自主的な国際交流活動を支援するための登録グループ制度があります。今回は「中国語会話講座 大家好」で活動する皆さんに、活動内容や国際交流への思いを伺いました。

陳：もちろん文法や教科書の問題もやりますが、「自分なりに表現してみる」というのが大事だと思っています。なので、活動の最初は作文の発表から始めるんですね。この一週間で関心を持った内容に関して、自分の言葉で表現する。作文を発表してもらって、添削をして、発音や教科書を使った学習に入っていきます。

活動人数はここ数年で少し減ってしまいましたが、時季やイベントがあるタイミングに合わせて、切り絵や楽器体験などのアクティビティも取り入れています。



作文添削

経験豊富な講師から学べます！



中国結び

【活動・団体についての問い合わせ先】

団体名：中国語会話講座 大家好

ダージュアハオ

活動時間：毎週火曜日 19:20～20:50 ※祝日休み

問合せ：090-6672-5358(池上・19:00-22:00のみ)

080-8729-2618(陳・ショートメッセージのみ)

とよなか国際交流センターおしらせ

「こくりゅうだより」第121号(2019年5月号)

発行元・問い合わせ：(公財)とよなか国際交流協会

〒560-0026 大阪府豊中市玉井町1丁目1-1エトシ豊中6F

阪急宝塚線豊中駅すぐ

開館時間：9:00～21:30(貸室受付は20:00まで、水曜休館)

TEL:06-6843-4343 FAX:06-6843-4375

E-Mail: atoms@a.zaq.jp WEB: [atoms.info/](http://www.toyonaka-international-exchange-center.org/atoms.info/)

多言語情報も
配信しています！



SNSも随時更新中！

「とよなか国際交流センター」で検索！

